

運輸総合研究所 研究報告会 2019年冬（第46回）  
御挨拶

- 運輸総合研究所の第46回研究報告会開催に際して、一言ご挨拶申し上げます。

令和元年という新しい時代を迎えた本年を締めくくるに当たり、研究報告会が例年同様に盛況に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

- さて、昨今の我が国の経済は、アベノミクスの推進により、経済の好循環を持続・拡大してまいりました。

そのような中、平成から令和という新しい時代にかわり、米中貿易摩擦など国際経済環境に不確実性が広がるなど、社会経済にも大きな変化が訪れています。

- また、台風第15号や第19号など、今年も自然災害が相次ぎ、激甚化する自然災害への対応が課題となっています。さらに、急速な人口減少・少子高齢化は、我が国の社会経済が直面する大きな課題です。

- 人口減少や少子高齢化の進行する中であっても、持続的な経済成長を成し遂げる上で鍵となるのが、AI、ロボット、IoTなど生産性を劇的に押し上げるイノベーションを原動力とする「Society 5.0」の実現であります。

○ 例えば、6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2019（骨太方針2019）」では、Society 5.0時代にふさわしい仕組みづくりとして、アプリを使った乗客のマッチングなどビジネスモデルのトランスフォーメーションを進め、タクシー事業において相乗り導入を行うこととしております。

また、ドローンの有人地帯での目視外飛行を目指すこととしています。

○ 話題を観光に転じてみますと、昨年訪日外国人旅行者数は、初めて3,000万人を超え旅行消費額も過去最高の4兆5,000億円となりましたが、我が国経済の持続的な成長や地方創生を実現していく上で、観光産業の伸びを確実なものにしていくことが不可欠であり、そのための施策を着実に推進していくことが必要です。

○ このように、我が国の交通運輸分野を取り巻く環境が大きく変化する中、グローバルレベルな社会の変化を意識し、行政として、将来を見通した課題対応や戦略立案を的確に行っていく上で、政策シンクタンクとしての運輸総合研究所が果たす役割は大きいものと認識しています。

○ 本日の報告会では、アジア地域の政治研究にお詳しい熊本県立大学の白石<sup>しらいし</sup>理事長と、貴研究所の所長を務められ、現在政策研究大学院大学政策研究セ

ンターの森地所長の対談があると伺っております。

また、ASEAN での活動を本格化させている貴研究所の興味深い研究の成果報告もあると伺っております。

- 本日の報告会の開催にあたり、宿利会長、山内所長をはじめ、関係者・研究者の皆様のご尽力に深く敬意を表するとともに、運輸総合研究所におかれては、引き続き、質の高い研究活動をはじめ、時宜にかなった精力的な活動に取り組まれることをお願い申し上げます。
  
- 最後に、本日の報告会が実りあるものとなることを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。